

3.岡山大学実践型社会連携授業

(1)教養科目 倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境

岡山大学地域総合研究センター・副センター長

岩淵 泰

はじめに

教養科目の「倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境」では、学部一年生を対象に、水島地区のまちづくりを題材にした地域課題の現状とまちづくりの実践を学ぶ授業を行っています。その特徴は、岡山大学の座学に合わせて、みずしま環境財団、商店街、まちづくり団体からの地域の現状を紹介してもらうことです。水島地区は日本有数のコンビナートを抱え、産業経済拠点として発展していますが、人口減少社会の中で、住民自身が住みやすいまちをどのように作っていくかを考えなければならなくなりました。学生たちは、集中講義への参加を通じて、その発展策や課題をまとめたレポートを提出します。

講義の視座

岩淵の専門は、政治学・市民参加のまちづくりです。まずは、「まちとは何だろう」という問いを学生たちに持ってもらいます。学部一年生はこれから専門を学んでいくので、地域に触れる経験を大切にしています。

本年度の集中講義は、熊本大学1名、新潟大学1名、本学学生9名の計11名が参加しました。対面とオンラインのハイブリッド型で授業をしました。対面での参加者は、5名でした。コロナ禍でも対面の授業を行いたいと、学生と地域の双方からお願いを受けました。三蜜対策を徹底し、オンラインを併用することで、授業を行うことにしました。このような実践的な授業は、準備に時間がかかります。昨年度も本年度も、地域のみなさんのお仕事が終わった後の夜のミーティングに何度も参加しました。また、岩淵が執筆した論文や新聞の原稿などを共通の資料として使うため、学生が地域に出かけるよりも、教員の準備が必要になります。

授業のカリキュラム

7月27日(火)に受講生とフィールドワークを行いました。水島商店街のまちあるきを行った後に、9月17日(金)のパーキングディの打ち合わせをしました。パーキングディは、アメリカ・サンフランシスコのまちづくり手法であり、道路を人間の活動空間に変えるイベントを行うものです。ポートランドのサウミヤ・キミ研究員から指導を受けてきました。まちあるきの後、古城池高校の学生も集まり、イベントの準備をしました。



しかし、8月、9月の緊急事態宣言のため、パーキングディを中止することにしました。その代わりに、地域課題やまちづくりを振り返る日を設定しました。岩淵の役割は、タウンミーティングというまちづくりを発表する場をコーディネートし、その内容に学生たちが発言する機会をつくりました。



9月16日(木)は、岡山大学にて、岩淵が市民参加の理論、みずしま財団から環境学習のまちづくりをレクチャーしました。9月17日(金)は、13時30から「タウンミーティングと住民自治(岩淵)」、14時から16時まで、「パーキングディと水島のまちづくり」、16時から17時まで、「おかみさんの会(商店街のお母さん方)」、17時30から19時まで、「タウンミーティング(倉敷市市議会議員、水島臨海鉄道、岩淵のゲスト)」では、学生たちが、コロナ禍で地域の発展策を議論しました。9月18日(土)9時30から11時まで、授業の振り返りを行いました。学生はレポートを提出し、評価を出します。

学生の感想によれば、オンラインと比べて、気を抜かず集中する時間が多かったそうです。そこに、大学らしさも感じたそうです。大変労力のかかる授業になるため、水島商店街のみなさんに多くのサポートを授業を行いました。

(2)水島タウンミーティング(9月17日)

ミズシマ・パークマネジメント Lab.代表理事 古川 明
(みずしま滞在型環境学習コンソーシアム副会長)

■参加者49名(オンライン参加者25名を含む)

2019年の夏にスタートした「パーキングデー」、本来ならば、前年同様、水島商店街の中心部にある商業施設跡地で開催する予定でしたが、実施直前の緊急事態宣言発出により、急遽、「ミズシマ・パークマネジメント Lab.(以下、MPM)」の活動拠点にてタウンミーティングという形式に変え実施する運びとなりました。

突然の方向転換により、ミーティングの目的や、何処に焦点を定めた企画にするべきか、また、コロナ禍の状況下で、参加人数はどうするかなど、事前の擦り合わせとスケジュールリングに大わらわでしたが、何とか開催に漕ぎつけることができました。そして迎えた当日。参加者の紹介を兼ねた主催者の挨拶に始まり、最初のプログラムは、当日の会のテーマとなった「タウンミーティング」に関する岡山大学の岩淵准教授による講話でした。先生から、タウンミーティングが生まれた背景や歴史、本来の目的と意義など、新鮮な話題が次々に提供されたこともあって、参加者一同、熱心に耳を傾けている姿がとても印象的でした。

続いて、MPMの古川代表と田辺常務理事より、「水島の街づくりの現状」と「Park(ing)Day」の本来の目的や水島での実施状況などについて説明を受けたあと、ミズシマ盛りあげ隊の野呂副代表が、水島で毎年行われる「いすー I GP(グランプリ)」について、会場の笑いを誘うような秘話を交えた話があり、大いに盛り上がりました。

休憩の後は、おかみさん会の皆さんの登場です。往事の水島の写真をスクリーンに映しながら、当時を語って頂くという趣向で、写真一枚一枚に関する思い出や当時のエピソードの紹介を頂きましたが、現在の水島商店街からは想像もできない当時の街の賑わいには、ただただ愕然とするばかり、興奮覚めやらぬ間に時間は過ぎていきました。

そしていよいよ当日最後のプログラム「タウンミーティング」のはじまりです。岩淵先生のリードにより尾崎倉敷市議と水島臨海鉄道の佐々木主幹の対談形式で進められたシナリオの無いプログラムでしたが、市政に対する感想や議員の使命、水島の街づくりの話などについて熱く語って頂いたお蔭で会場から質問が飛び出すなど、盛り上がりを見せました。興の乗ってきたところで、後半では、会場の岡山大学の学生さんたちも対話に加わってもらうことになって、会場は、奇しくも「タウンミーティング」さながらの雰囲気…。冒頭、岩淵先生が説明くださった「タウンミーティング」の一端を最後に体感できる印象深い会となりました。



【当日の様子】

